

ららばい、通信

Lullaby News

2023年
秋号

特集 明日への伝言

ことづて

親であるあなた、やがて親になるあなた
未来は子ども達の手の中に
そして親であるあなた達に託したいのです
希望のある明日を願って



画／大野隆司

[目 次]

- 座談「明日への伝言」
山折 哲雄／東伏見 慈晃／故青木 新門 ……2
- 【インタビュー】全国有志医師の会 某医師
ワクチンは悪の源か 考えようワクチン接種 ……8
- 特集
お母さんのための 子守唄教室 第2回 西館 好子 ……10
- 連載 直島便り
「ぬくもりは命の証」 山根 光恵 ……11
- 連載
寝入れ寝入れ小法師 わらべうた 童謡 詞華抄4 尾原 昭夫 ……12
- 連載 子ども虐待は、今
「ジャニーズ問題と児童虐待防止法」 川崎 二三彦 ……16
- 連載
「心ときめく呼吸法」 帯津 良一 ……18
- COLUMN／遠野ふるさとづくり 木瀬なずな ……20
- 活動報告 ……21
- 寄付者名簿

唄の ページ



窓うつ嵐に 夢も破れ
はるけきかなたに 心迷う
恋しやふるさと
なつかし父母
思いに浮かぶは 森のこずえ
窓うつ嵐に 夢も破れ
はるけきかなたに 心迷う
恋しやふるさと
なつかし父母
思いに浮かぶは 森のこずえ
窓うつ嵐に 夢も破れ
はるけきかなたに 心迷う

「旅愁」

『秋の歌』

「秋」

チンチロ マツムシ ムシノコエ
ニワノハタケデ ナキマシタ
ギンギラ ハノツユ クサノツユ
ツキノヒカリガ ヌレマシタ
トロトロ モエルヒ イロリノヒ
クリガハゼマス ニオイマス

「夕空はれて」

夕空はれて 秋風吹き
月影あちて 鈴虫なく
思えば遠し 故郷の空
ああ、わが父母
いかにあわす

「モーツアルトの子守唄」

眠れよい子よ 庭や牧場に
鳥も羊も みんな眠れば
月は窓から 銀のひかりを
そそぐこの夜
眠れよい子よ 眠れや
家のうちそと 昔は静まり
棚のねずみも みんな眠れば
奥の部屋から 声のひそかに
ひびくばかりよ
眠れよい子よ 眠れや

いつも楽しい 幸せな子よ
おもちゃいろいろ あまいお菓子も
みんなそなたの おめざ待つゆえ
夢に今宵を 眠れや
眠れよい子よ 眠れや

令和5年 ららばい通信 秋号を お手元にお届けさせていただきます。

「夏過ぎて秋が来るのがはやすぎる」
これは順天堂病院に入院していた美空ひばりさんが書き残した色紙の一文です。歌舞伎俳優 中村獅童さんの母上、故 小川洋子さんから生前私が頂いたものです。

灼熱の激しい夏がある時日暮れを早くし、秋風の冷気に季節の変わり目の早さを感じる瞬間、その移ろいに自分の生を重ねたものかもしれません。ひばりさんはそれから間もなく、この世からいなくなってしまったのですから。

毎年、年を追うごとに時間の経過が早くなっていくように思います。子どもの頃、あんなにたつぷりあった時間は、今は一瞬に過ぎています。

遊び疲れてなお、やる事がまだまだあるのに…と眠りについていた子どもの頃と、やつてもやつても終わりの見えない雑用の毎日に、イライラを抱えながら眠りにつく大人との違いは何なのか。人生における明日へのワクワク感が細つてきたからに違いありません。すべてが初体験の時代、興味と探究心にあふれていたあの日々は、やはり青春というギラギラと燃える太陽が照りつける暑い夏に象徴されるものなのでしょう。

秋もまた季節の循環で毎年訪れるものなのに、年を重ねるごとに様々な思いが深くなり、ひどく敏感になつていく自分を感じます。当たり前のようには書かれたひばりさんの一句が妙に気にかかるものとなりました。

赤トンボ舞う秋に、2023年秋号をお届けさせていただきます。

日本子守唄協会

理事長 西館好子

性格の癖

日本子守唄協会 理事長 西館好子

人はみんな一人一人違います。そして一人一人が異なった自己表現法を持っています。性格によって自分の言い分を他人にどう伝えようか、精一杯の努力をします。どんな子どもでも、その子なりの表現を持っています。大人はその思いを心に汲んであげる必要があります。

はじめて私を訪ねてくださったAさんは、植木屋さんで奥様が知的障害を患っています。Aさんはその奥様がお描きになる絵が大好きで、「どうしたらこんな発想ができるのだろう」と、奥様が画板に向かう姿を毎回ワクワクしながら見ているそうです。

お弟子さんもまた精神に支障をきたしていました。ある時生垣の葉を真つすぐ刈らず波状に刈ってしまったことで、注文主に叱られたそうです。しかし、その生垣はそのまま枯れることもなく、今では芸術的にさえ見えるそうです。

多くの子ども達にお菓子を配ったことがありました。その時、手を出せずお菓子をもらいそびれた、おとなしい一人の少女がいました。

Aさん「西館さん、その子何と言ったと思います？」

私「私にもお菓子をください、ですか。」

Aさん「いいえ、その子は、私にもポケットがあります、って。いい表現でしょう。むしろ、お菓子をポケット一杯に入れてあげましたよ。」

私はAさんが一瞬で好きになりました。「人はみんな違ってみんないい（金子みすず）」の通り、どんな人の心の表現も受け入れ大切にするといい姿勢。彼の素晴らしい笑顔が子ども達を明るく照らしていました。

DISCUSSION

【座談】

明日への伝言

平成二十三年六月二十五日(土) 青蓮院にて

〔出演〕山折哲雄(宗教学者)／東伏見 慈晃(青蓮院門跡)／故青木新門(詩人)
〔聞き手〕西館 好子(日本子守唄協会理事長)

あの頃、東日本大震災という未曾有の災禍の後、多くの日本人は命のよろさを考え、自然の恐怖に戦慄しました。コロナという目に見えないウイルスもまた、命が一瞬に生死の分かれ目になるという現実を教えてくれました。

ほっと一息ついたものの、必ず起きるといふ災害や感染の到来は不安の中に日々現実味を帯びてきています。自分の命と向き合うことの大切さを今ほど私たちが考えなくてはならない時期はないでしょう。今年は青木新門さんの一周忌にあたります。高齢におなりになった山折哲雄さん、そして青蓮院門跡の東伏見 慈晃さんの三人での座談は、今現在も多くの活きる指針やヒントになると信じ、採録いたします。

緑の風がそよぐ京都・青蓮院にて、 奉納コンサートがおこなわれました。 災禍をのりこえて『今伝えたいこと』・・・

西館： 本日に暑い日ですね。(当日京都夕刻の気温は三十五度)由緒ある青蓮院でこういう会が開きました事を光栄に思っています。

三月十一日未曾有の大災害が起きました。瞬時に奪われた日常と命、天災と一口に片付けられないほどの大きな災禍を私達はそれぞれに我が身として考え、人生観を改めて見直すという方が多かったのではないのでしょうか？地震、津波、そして原発事故、どの一つでさえ大変なのに、ここまで重なり、戸惑うばかりです。被災地の復興ははかどらず、あぐくに放射能という見えないものとの戦いが日本中を覆っております。

八年前に出版されたマヤ暦という本では、大地震が起きすべて水で覆われる。鳥が疫病を運び、動物は絶滅し、一つの世界が終わりをとげるという予言がありました。読んだ後当時の私はせせら笑っていましたが、それが現実になってしまったのか、という思いに駆られました。

滅びに向かっているとしても、そうあきらめてしまっていないのか、私たちは老いて覚悟することはできるにしても、これからの日本の未来を担い、命を繋いでいく子供たちを大切にしなければなりません。大人である私達は今ここに近代文明の罪とそ

の責任を突き付けられたのではないのでしょうか。

今日これからお話しを伺う三人の皆様を私はあえて三賢者として、ご紹介させて頂きます。
年と経験と見識をお持ちで、様々な経験から、その生き様から人生を織りなしてきた方達です。子供たちの未来に伝える伝言を、今大人たちは本気で考え、どう伝えなければならぬのか？ぜひお話を伺いしたいとぞんじます。
会を始めるにあたり、三人の賢者をご紹介させて頂きます。

宗教学者の山折 哲雄先生です。詩人であり作家。先日オスカーを受賞したおくりびとの原作「納棺夫日記」の著者である青木 新門さん。青蓮院門跡の東伏見 慈晃門跡の皆さまです。

青木： 私ね、こちら青蓮院に参りまして実は非常に緊張しております。ここは親鸞が得度なさったところだなあと思いを馳せて。

親鸞のいらしたあの頃は、京都は大変で大地震があったのではないのでしょうか？方丈記にお詳しい山折先生いかがでしょうか？

山折： 突然振ってきましたか？今から八百年ほど前にちょうど、大地震、台風、飢饉、洪水などが襲い、四万人を超えるしゃれこうべがこの都大路にあふれていたという記録があります。人々は風にまどい、地震を畏れ、逃げていくしかなかった。まさに末法という時代そのままでした。毎年の様にそんな災禍にみまわれる、親鸞さんはそんな中で出家なさったわけです。

青木： 私そのお話しを思いだして、西館さんと一緒に一緒に南相馬の被災地の皆様の前でこんな話し

をしたのです。納棺夫日記というものを書きましたのは、多くの死者をお棺にいれるという仕事を十年間くらいしていたのですよ、私。
その時死者の顔がみんないい顔しているなあという事に気がついたんです。ある日、警察から依頼があつてお棺を届けに行きました。一人ぐらしのご老人が何力月も前におなくなりになり、誰も看取らなかった。遺体の布団をめくると内臓が全て「うじ」に食べられて肋骨まで見えてしまっているという悲惨なご遺体の姿でした。部屋中がうじだらけ、掃除するために一か所にかき集めたうじが、必死に逃げているんですね。その時、はっとしました。その一匹一匹にも命があるんだと。それはそのまま書いたのですが、俳優の本木雅弘さんがインドのベナレスで写真集を撮り、その出版された写真集が手元に届いて驚きました。水浴びをする本木さんの写真のタイトルが「うじが光って見えた」とあるので、驚きました。

俳優でこんな言葉を選べる人はそうそういないと思いました。
生と死がクロスする瞬間というのを彼は感じたのではないのでしょうか。被災地でお話しさせて頂いた時も同じ話をしました。

山で遭難して生き返った友人がいるのですが、もう駄目だと思った瞬間に全人生が走馬灯のようにあらわれてお世話になった人にありがとうと言えたということです。

アンデルセンのマッチ売りの少女も同じですよ、ね、次の日の朝にほっぺを真っ赤にして、誰も知らない美しい世界に行ったとお話しは結びます。金沢でゴリラの研究をされている先生がおられますが、動物というのは死の観念がないので、死ぬ瞬間まで恐怖感という概念はなく、自然の摂理に従って素直に死を授与して死んでいく。子供も同じ、熱

心に宗教に信仰されている方もそのようです。生と死の境界線の中に命のバトンタッチはあるとそんなお話しを被災地でしてきたわけなんです。

西館： それは被災地で災禍に命を奪われた人たちの鎮魂、残された方々への死の受け入れ方に指針となったような気がしました。

では、ここで宗教学者の山折 哲雄先生にお話しをお伺いしたいと思います。死の作法を大人は忘れているんじゃないか？というテーマで本を書かれていらつしやいますか？。

山折： 私はまだ死の作法が定まらないので今も考えています。毎日朝食後に新聞を読んで、うたたねをし、妄想がはじまり、人とお会いするのはお昼を過ぎてからという事が多いのです。家ではない、遠くから来られる方も近くのホテルでお目にかかるというパターンが、もう十年くらいつづいています。

ある方との待ち合わせの時間に三十分ほど遅れてしまったことがあります。急いでホテルまで走って行ったのですが、その方はホテルのエントランスの前でじっと立っておられるんですよ。これはえらい事になったと思ひながら、急いで深々と頭を下げてお詫言ひ申し上げたんです。そうしましたらその方はこういう事を仰ったのです。「出迎え三步、見送り七歩」ですからね、とニコッと笑っておられました。私は思いました、もう三十分も遅れてしまったのに、ホテルの前までで私のために出迎え三步を実践されていたわけです。その後打ち合わせを終えてお別れの時間になりました。

さてよ、三十分も待たせた上に、今度は見送り七歩なんだからと考えると、サッと体が震えるような気がしました。お別れのご挨拶をして離れ

ていくときに考えました。今、見送られているんだなあ、背中を見られている。そのとき思ったのです。冷たい背中もあればあったかい背中もある、堂々とした背中もあれば、しょぼくれた背中もあると、様々なイメージがわいてきて、自分の背中はどうなのだろう、うちに帰るまでずっとその視線を感じ、気が動転していました。それにしても「出迎え三步、見送り七歩」というのはいい言葉だなあと思って調べていたのですが、なかなか見つからない。今もです。

人はみんなこの世を去る時には、ある意味では背中を見せて去っていくのではないか。家族に対して、世間に対して去って行く人々は、はたして「見送り七歩」の視線を感じながら去っていくているのだろうか。人との出会いと別れはつくづくこの出迎え三步見送り七歩だと思います。本当は一期一会の機会を持たせてもらっているのだろうか、とそんな気分になるときもある。そのような事を考えるようになりました。

もう八十才にもなると、楽しみてあんまりないんですよ。今は色々な方と出会えるのが最大の楽しみです。それに酒が入ると尚更良いですね。(笑) どうでしょう？この言葉を自分で実践できるかどうかは別にしても、日本語にそういう言葉があったという事を発見しただけでも私にとっては喜びなんです。若い人達にも伝えていきたい。

西館： 言葉と人と関わる事の原点、覚悟がどれほど大事な事なのかということをお山折先生はおっしゃっていたのだと思います。

ここで青蓮院門跡の東伏見 慈晃さんにお話しをお伺いしたいと思います。門跡になられるまでは普通のお勤めをされていたとうかがっております。これからのように生きていくべきか、次世代

に何をどのように伝えていくべきか、お話しただけでしたらと思います。

門跡… 非常に重いテーマのお話ですね、ご紹介頂いた通り私門跡の前は銀行に勤めておりまして、実はまだその時間のほうが長いんですね。門跡としては十九年目なろうとしています、その中で皆様がおられるのが世間、私もがいるのが出世間でございます。はたしてどこが違うのか？大変重いテーマになりますが。

今度の震災でも、直後はテレビをみても黒い大きな水の塊に押し流されていくシーンに驚き、多くの人は一体何が起こってしまったのだろう、という思いだったことでしょう。次にこの事態をなんとかしなきゃいけないと義援金や支援できる事をしたいという思いがありました。人は様々な考え思いをもちました。その思いでございますが、宗教においてはまずはこの思いが一番最初にあるのだと考えています。思いを願いという段階に高めて、祈りにつなげていく。思いから願いへそれが祈りというものになっていく。

私はと言えば、東北で大きな被害に逢われた方に対して、安楽に浄土に行かれるようにといった思いを一生懸命に祈ることしかできない。宗教の第一歩には思いから祈りへの道筋があるのではないのでしょうか。その根底には利他…自分の事より、人の事を一生懸命考えてあげる、この事こそがお釈迦様の最も大切な教えなのです。

そうはいっても私達は、生活もあり常に被災地に関わってられない。思いはあっても現実には出来ない。それがギャップになり反省となり懺悔という事になっていくのではないのでしょうか。

若い人たちには自分の事ばかり考えずに、少しでも他の人のために何ができるのか？を聞いて欲しい。

会った人は他と違うと思うんです。たとえば親鸞さん、法然さん、妙瑛さん、道元さん、蓮如さん、吉川英治さん、井上靖さん、詩人の方にも多くおられますが、九歳くらいまでに父や母と別れたりした人と十八歳くらいで別れるのでは全然違うんですよ。だから幼い時に親と別れてしまうなど大きな悲しみと出会った人はどうしても美しいもの、優しきものを生涯追っかける事になるのではないだろうか？とつくづく考えてしまうんです。

それは大人になると頭で考えるし、小さい時は五感で認識することの違いなんだろうと思います。ですからヨーロッパ近代思想というのはほとんど人間中心主義なので、頭で考えて自然を征服して人間に都合の良いものを作り上げていった世界ですね。しかし、五感で考える世界というのは全く違います。

小学校三年生の男の子の詩をご紹介します。頂きます。

「僕は今日学校の帰りにトンボを捕まえて帰ったんだけど、お母さんが可哀そうだから離してあげないさいというから、トンボを放してあげたらトンボは嬉しそうに空高く飛んでいった。でも帰ってきた僕がみたのは、台所でお母さんがゴキブリをほうきで叩き潰している姿だった。(笑)トンボもゴキブリも昆虫なのに。」

少年はゴキブリもトンボも同じ昆虫であると認識しているのにお母さんは分けて考えている。これはヨーロッパの近代思想のヒューマニズムが今の母親様に身についている現れであると思います。トンボにはとても優しいんだけど、人間に都合の悪いゴキブリはたたき殺しても心に痛みも感じない。今日の少年の事件の裁判など観ていますと、あまりにも身勝手な自己中心的な犯罪が増えてい

しいと思いますが、われわれ大人がお手本を示して、そのように生きていかなければいけないと感じております。

西館… 痛いセリフですね。私たちの生活は果たしてこのままでいいのでしょうかね？

門跡… 自分自身を反省するという意味で、まずは何から助けられるのか？お金だろうと考えて寄付も致しました。お寺なのですからすぐに現地に行ってお手伝いする事も考えましたが、特定の宗教を受け入れられない政教分離の原則からという問題もございまして、私もまさに懺悔といった日々でございます。

西館… そうでしたか。私は先日遠野にお手伝いに行つてまいりましたが、元気のない大人の思いをよそに、子供は元気なことにびっくりしました。ほっとしました。やはり何も知らないからなんでしょうかね？

山折… 良く言われる事です、前から思っていた書いたり言ったりしてきた事なのですが、子供



写真左より 西館好子／山折哲夫／青木新門／東伏見慈晃(青蓮院にて)

ますよね。自分に都合が良いという事が基準になってしまっている。

西館… だんだんとアメリカナイズされているのですよね。親鸞にしても法然にしても九歳までの苦しみや悲しみを経験しているのですが、僧侶にはこういう方が多いのでしょうか？

青木… 今の僧侶になる方は、九歳くらいまで上げ膳据え膳ですからね。そこに問題があるんですよ。

西館… そうなんです、門跡どうなのでしょう？宗教観や活動に影響はありますか？

門跡… 影響はあると思います、親たちも苦しみや悲しみを子供には与えまいと育てるのが親の役目だとして、今日の社会を作ってきているからです。

西館… 別れというのは人間にとって非常に大きいものですよね。

ていうのは悲しみより苦しみの中で過ごしている存在なんですよ。対して大人は苦しみよりも悲しみの中で生きている存在なんですね。相対的なものです。

西館… 子供が生活の中で苦しむのですか？

山折… なぜ子供たちは悲しみの世界から離れているのかのように映るかという、いわゆる社会との経験、大人たちとの経験が薄いわけですね、そこにいきなりあんな大震災が起こったり、肉体的な苦痛が起こったりするとですね、苦しみは耐えるしかない。それが逆に天真爛漫な笑顔にも通じているということにもなると思います。

しかし成長して学校教育をうけ社会にでている経験を経積み重ねていく事で、世の中はどうにもならないということを感じさせるようになる。そこで初めて悲しみというものを知る。悲しみは大人たちのある意味ではエゴイスティックな感情浄化の作用だと思います。それで救われるわけですよ。大人というのは苦しみだけ、あるいは怒りだけでは決して救われない。悲しみに浸ることによって始めて救われる。ところがそういう心の動き方を子供たちはまだ知らない。それが反って宝のように見えるんですよ、大人の目からみると。

実は子供というのは肉体全体で苦しんでいる。この違いについて、ある哲学者も言っていますね、大人は悲しみの中で生き、子供は苦しみの中で生きている。

西館… 苦しみと悲しみには大きな差があるようですね。

青木… 私は九歳くらいまでに大きな悲しみに出

青木… でも、悲しみが多いほど、人は優しくなれる。武田鉄矢さんの歌詞ではありませんけど、彼は中原中也の大ファンなのでおそらくそこがベースになっているでしょうけど。大きな悲しみが大きな優しさを生む。

門跡… 本心に仰るとおりだと思います。今の子供に限らず、大人も含めて自分だけければ良いという考えでいるように思います。

大悲大慈といえ、いつも申している事がございまして、何が悲しいといえますと、自分の身内が亡くなったとか、自分の思いが遂げられなかったなど、あくまでも「自分」が主語になるわけですね。お釈迦様が仰っているのは、人の苦しみや悲しみは、これが自分の事のように解る事だと更に大悲を願っている。つまり全て人の苦しみや悲しみがわかる心、慈しむという字からして自分はなにもとらないで人に施すことを仏教の、源であるとしています。

まあ、それができないから苦しみが生まれてくるんだと思います。一歩でも半歩でもそれに近づく努力をしなければいけないと思います。

青木… 五感で認識する事と頭で考える事は違うという事です。震災以降、多くの人たちは大きな悲しみを五感で認識したんだと思うんですよ。だから一夜にして心を動かされた。無縁が結縁社会になった。永田町だけはずっと頭で考えている(笑)そこが困るわけなんですけど。

頭で考えた原子力が今となつてはコントロールできなくなっているしね。

西館… 山折先生は良く無常を感じるといってお言葉をお使いになつていらっしゃるようですが、先生のお

考えになる無常とはいかなるものなのでしょう
か？

山折… 阪神大震災の時に、無常を感じました。いろんなメディアからインタビューや執筆の依頼があったのですが、記者やジャーナリストのみなさんは無常という言葉にアレルギーをもっていて、そういう言葉は使いたがらない。被災されて大変な方がいるのに、世の中は無常だなんてメディアでは書けないというわけです。例外なくそうでした。日本人というのはいつまで無常嫌いなんだろうかと考えたものです。しかし考えてみると、源氏物語、平家物語、浄瑠璃など日本の千年の歴史のなかで伝えられてきた語り物の文学に共通しているテーマは無常なんですね。

我々自身のアイデンティティー、根元的な感情というものはその無常だったはずなのに、それがもう全然通用しなくなってしまうている。そう今から十五年前の阪神大震災の時に思っていました。ところが、今度の東北大震災を機に無常という言葉が堰を切ったように社会にあふれ出てきているように思います。メディアもどんどん使っている。そういう言葉を今まで使わなかったある新聞なども、積極的に使いだしていて、方丈記の解説本が売れ始めたそうです。

無常嫌いだったのに、こんどは無常が好きになったのか、その背後にある種の軽薄な動きすら感じました。津波より原発の放射能汚染でそう思うようになっていのではないのでしょうか。追い込まれた事でようやく日本人のそういった感情、千年の伝統のある無常感という感情が意識されはじめた人々の間に浸透しはじめてきているんだと思います。

そういう事を前提にして、話したいのですが、三月十一日の大災害が起ってからしばらく経って、

『美しき日本』

詩 青木新門

桜が咲き 芽生える若葉
いのちは ぼくらのために
なんて美しい東北の春なのだろう

青い空 白い雲
豊かな海 ぼくらのために
なんて美しい三陸の海なんだろう

瓦礫の中にも 少年の笑顔
無縁社会も 一夜のうちに
笑顔で交わす「二人でないよ」

大きな悲しみ 和のこころ
大悲大慈 ぼくらのために
なんて美しい日本なんだろう
なんて美しい日本なんだろう

西館… いまこの詩にたくさんの方が曲を作ってくださいています。さて、最後に門跡に締め言葉を頂けますか？

門跡… 二人の先生に良いお話しを頂きましたので、私がこれ以上申し上げることはないんですけど、山折先生が申しましたように、メディアなど今の日本があまりにも規則とかそういった物に縛られすぎて動きがとれない、国会にしてもそうでありますけれども。

青木先生が言われたように思うこと、感じる気持ちをもっと素直に実現できていくような世の中であってほしいし、怒りを思うのであれば、その怒りを爆発させるという事が大事だと思いました。

NHKがテレビである特番を放送していました。現地の方を励ますための内容だったと思います。そこででてきた人物は、千昌夫さん、新沼健治さん、吉幾三さんでした。東北出身の代表である歌手にたっぷり歌ってもらってそれで被災地の方々を励まそうという番組。その時に千昌夫さんが真っ先に歌ったのが「北国の春」でした。

それ以前に映像で瓦礫のど真ん中で椅子に座って海を見ている老人が、北国の春を小さな声で歌っている非常に印象的なシーンの映像をみたのですが、それと重なりましてね。

ああ、こういう大災害が起けると復興への気持ちがあるさとの思いと重なってでてくるんだなあ。故郷への望郷の気持ちがあるにしみじみ出ていた。

次に、新沼健治が「嫁に來ないか」を歌ったんですよ。いつのまにかみんな東京へ行ってしまつて、東北には若い女性がいなくなつた。それでもお前さんをまごころをもつて幸せにしてやるから嫁に來ないか？と哀愁をこめて歌っていました。さあ次は吉幾三のヒット曲「俺ら東京さ行ぐだ」が聞けるのかと思つていたら、吉さんは歌いませんでした。彼は二人の間で二人を盛りたてる道化役に徹していたのですが、しかし私はそれが不満でした。

なぜNHKは吉さんにあの歌を歌わせなかったのかと、実際に被災地にいる人たちの本当の気持ちをわかつていないのではないかと。

吉幾三が歌うあの歌は怒りの気持ちをぶつけているんですね。電気もねえガスもねえ車もねえなんにもねえ。だからおらも東京さ行つてべこつこ飼うだ。全ては東京が持つていつてしまつて田舎には何も無い。その歌には叙情などでは無く、ただ東北の慟哭と叫び、怒りというものがほとばしっている。それを歌つてほしかった…。

田舎には何も残つていない、そういう風にしたのは誰だ？という抗議の感情ですよ。しかしどうも災害になると日本人というのは、遠く故郷に帰ろう故郷はいいという抒情的な演歌を前面にだして歌いたがる。その後のマスコミが企てる被災地東北への何かの企画にはみんな「北国の春」的な感覚でつくつていてという場合が非常に多いと思うんですよ。もうそんな段階じゃないという事を私は言いたい。マスコミの劣化はとことん来るとこれまで来てしまつていてるなあとも思います。

西館… そうですね、先日先生は怒つてらっしゃっていましたよね。東京の目線で復興するのではなく、あの土地には土地にしかないものがあるんだ。そこに目を向けない限り、本当の復興にはならないだろう…と。

さて、私たちは未曾有の大災害の中で「命」への思いを改めて考えたのではないのでしょうか。大切な子供たちに何をどう伝えればいいのか、ひとりひとりが命に向き合い考えていくべきだと思います。

最後にひとことずつ頑張れニッポン、頑張れ人間、頑張れ地球というテーマでお言葉を頂きますでしょうか？

山折… 私はやっぱり、これからは東京一極集中のシステムをいろんなレベルで崩していけないといけないと思います。そういう点では京都も東京に対して、文化や芸術を育ててきた京都の独自性を強く主張し打ち出していくべきだと思います。日本の各地でそういう声をあげる事が究極的には被災地東北を助けることにつながると思います。

青木… 私は詩を朗読させてもらつてもいいでしょうか？ 被災地へ贈る唄。

この震災では世界中に日本は礼儀正しい国と流布されました。

暴動も起きない素晴らしい日本でありながら、もつともつこれはおかしいと思うことはしっかりと表現していく事が大事なのではないのかなと思つています。

2023年夏 京都 山折哲雄先生の書斎から再度のメッセージ

「親になるあなたへ」 山折哲雄

このところ事件や犯罪が多発し、ニセ情報や詐欺まがいの勧誘も増え、この世に不安が広がっています。

いきおい「人を信用するな、他人にダメされるな」の聲があがるようになりました。親たち、教師たち、そして世の中の識者たちもジレンマを持っています。

つらいジレンマです。けれども思い出してほしいのです。昔の村の子ども達は見知らぬ子ども達が村にやってくると、一種の挨拶がわりにやっていたことがあります。

それが「睨む、睨みつける」という行為でした。そう言ったのが民俗学者の柳田國男でした。怪しい者が近づいてきたぞ、そんな通報をうけるとガキ大将のようなのが飛んできて、その見知らぬものの前に立ちはだかりハッタと睨みつける。するとこの闖入者も何を負けじと睨み返す。

その気迫の対決をへて、勝てば村への進入を許す。合格しなければ追い返す。まさに睨み合いの格闘技でした。

一方、この戦いに敗れていさぎよく降参すれば、そこから新しい交流が始まる。この何とも浮世離れの挨拶の仕方が、やがてゲーム化し子どもたちの「睨めっこ遊び」になっていったというのが、先の柳田説の骨子でした。

端然と睨む、威厳のある態度で相手の目を見据える。この睨む精神が今日の大人から子どもから失われてしまつて久しいのです。

かつて、我々の地域の国境には関所のようなところがありました。そこはしばしば前近代のチェックポイントとされ、マイナスの烙印を押されていましたが、他方、そこは浮世からは遠く離れた桃源境。そして子供たちの夢の世界へと誘う魅惑の入口でもありました。

山姥や金太郎、一寸法師や瓜子姫たちが登場してきて世にも不思議なお伽話の舞台に連れだしてくれたものです。

その入口の関門で今日、睨みをきかせてくれる親たちはいったいどこにいろのでしょうか。睨みの日本人よ、現れよ。

INTERVIEW

【インタビュー】

全国有志医師の会 某医師

ワクチンは悪の源か

考えようワクチン接種

感染症の中でも変異を繰り返すウイルスは、変化しつつ次々出てきています。人間との戦いは永久に終わりそうにありません。

ある日突然に「コロナによる死」が報じられ、生は身近な恐怖となり私たちを襲ってきました。生活は一変し、あらゆるものがコロナなくては考えられない日常となりました。消毒薬とマスクを買いあさり、外出もままならず、人との接触も遮断、毎日の感染者数死亡数に一喜一憂し、ニュースではコロナ評論家の言葉に振り回されました。「ワクチン」を打つに長蛇の列を作り、予約に奔走し、仕事場も家庭も学校も地域も正常ではなくなりました。会食もイベントも中止、病院の見舞いも老人介護では面会禁止、冠婚葬祭も影を失いました。

考えれば「狂乱」の日々でした。そして、少し冷静を取り戻したと同時にそのワクチンに「???」（はてな）が付き始めました。

ワクチンを打つてその場で倒れ病院に搬送されたという友人の報が入り、「それが意外に多いんだ」という話を皮切りに、あの人が、この人も、という情報が次々入るようになりました。「とうとう罹ってしまった」という連絡の後、罹病や後遺症を疑う情報も多くなりました。

ある日、元気に仕事をしていたはずの男性から就業時間が過ぎたころ突然に、「僕、今どこにいる

のわからなくなりました」と電話をくれました。その日から彼は入退院を繰り返し、今や廃人のようです。後日判明したのは、ワクチンを打った一ヶ月前の直後、何かがおかしいと彼なりに民間療法などに頼ったり、運動したりとしていたそうですが、検査の結果、脳に霧がかかる疾患だということがわかりました。しかし、治療法はありません。

また、ある高齢の男性は、ワクチンを打った後に片目の視力がなくなり、左足はしびれたままという症状。これも原因不明で、今もって不自由しています。

すでにワクチンを打ち続けている国は今では我が国だけ。夏の猛暑でもマスクをし続けているのも、まだ無料ワクチンを打とうと呼びかけているのも日本だけ…。それに疑問を持つ国民は日々多くなっているはずだ。

ここに「全国有志医師の会」という組織があります。ワクチン接種に反対する医師、歯科医師、獣医師、医療従事者の計8,288名が加入しています。子どもへのワクチン接種反対の記者会見もしましたが、大きなニュースにもなりませんでした。

ひょんなことで、この会に属しているという若い医師とお話できる機会がありました。病院の多くは日本医師会や既存の医学界の傘下にあり、反医師会的な活動は職を失う危険すらあるので名乗ること

はできません。おそらく彼もまたその一人です。「もちろんワクチン接種は絶対反対です。調べれば調べるほど不透明、大きな意図的な陰謀の中でパンデミックにあえて仕立てられたのでは…。」と彼。その若い医師に話を聞きました。

そういえば、当初は中国武漢から意図的に流されたものでしたよね

— そうだと思います。極端に聞こえるかも知れませんが、生物兵器による人口抑制の意図を排除できません。パンデミックという名の元、メディアによって煽りに煽られた新型コロナウイルスですが、早い段階でエアロゾル・空気・飛沫感染によるものであり、イメージするほど重症化するケースは多くないと分かっていました。しかし、全世界が恐怖に巻き込まれた結果、その心理的恐怖から未だに日本はマスク社会から脱却できていないんです。

何のために。人口を一定に調整するためのですか

— 推察はできませんが、よく分かりません。しかし、新型コロナウイルスは中国単独で作られたものではなく、ほかの国々も絡んでいる事は明白です。経済的な側面もあるでしょう。製薬会社にとっては、健康者へ治療薬ではないワクチンを大量接種することは莫大な利益が見込まれ、実際に膨大な利益を得ました。ワクチンそのものが金の生る木です。医者側もワクチンという莫大な儲け話に乗り、国は接種しないと体に危ない、という宣伝で後押ししました。また、日本人の文化的特性上の「人の良さ」を分かっているでしょう、メディアは「思いやりワクチン」という偽善的な宣伝文句を使って接種を強力に推進しました。とても作偽的です。

当初は本当に良いものだと思われて推進した医者達は多いと思いますが、今となってはその言い訳は通じないでしょう。更に驚くのは、そのmRNAワクチン自体が生物兵器の側面があるかもしれないと、邪推しても妄想ではないと思われる間接証拠が出てきつつあるのです。

健康を質入れして、ワクチンを正当化しようとしたのでしょうかねえ

— 人類が今まで体験したことのないmRNAという新しいワクチンの大量接種。当初、臨床試験中で治験データ作成中にも関わらず、ワクチンの良いとされる側面ばかりが報道されました。学術論文ですらそうでした。中長期の安全性が分かっていないにも関わらず。

厚生省は、死亡とワクチン接種の関係や、ワクチン後遺症の実態を本当はわかっているのでしょうか。イギリスやアメリカなどの諸外国では、多数の市民活動の影響もあり、接種後の有害事象のデータは多く公表されています。それなのに日本は、まだワクチン接種を呼び掛けている。多額の税金で購入したワクチン在庫セールの終了したとしても、次があります。本来、医食同源を基礎として普通の生活をしていればさほど問題のないような疾病に対して、mRNAワクチンがリリースされてくることでしょう。

洗脳されてしまったのは我々の盲信と愚かさが一因です。他者のせいにはしたい気持ちもありますが、結局は我々自身の課題なんです。本来の日本人はもっと賢明な判断ができるはずなのに、なんとも残念です。

ではワクチンによる弊害は実際何なのですか

— コロナ感染への恐怖心が強い方々はまだ多い

ですが、ワクチン後遺症の方が遥かに問題です。コロナ感染以上に血栓症を来す可能性が高まりますし、頻回のワクチン接種は免疫不全になる可能性を高めてしまいます。また、ある種の癌を加速させてしまう可能性があると分かっています。何よりも深刻なのは、後遺症は年単位で遅れて出てくるケースがあることです。その場合の後遺症認定は、ただでさえ因果関係の証明が困難なのに、更にハードルが高くなり、結果として泣き寝入りとなっている方々が多数出ているのが実感です。

私感ですが、コロナにかかった方が、妙に老いが速くなっているように思えますが

— もちろん、コロナ後遺症もあるでしょうが、ワクチン後遺症の方が深刻です。日本人は8割がワクチンを2回以上接種しているので、大半の高齢者は免疫が落ちている可能性があります。コロナ罹患で老化が進んだ感じもあるのでしょうか、頻回のワクチン接種による免疫力低下の影響が大きいのではないかと思います。心臓や脳に取り込まれてしまった場合には解毒できない異物を何度も体に入れてしまっているようなものですから。多くのご高齢の方々が、テレビが間違ったことを言うはずがない、と無意識に思っている背景も相まって、現実がとてども分かりにくくなっています。

子どもに打つなんて、とんでもないことなのでね

— まさに「悪の子守唄」です。親は健康な子どもにmRNAワクチン接種をさせてはいけません。数年後に後悔します。親が子どもの健康を維持するには、普段から食生活や免疫を高める日常生活に気を配るだけでなく、親自身が世の中の情勢を冷静に見る俯瞰力がとても大切だと思います。こ

の3年間を冷静に振り返ると、色々な気づきがあると思います。子どもは親が大好きなので、親がしっかりとした見識を持っている事はとても大切です。例えば「親がワクチンを打ちなさい」と言い放ってしまうと、子どもとしては「本当は嫌だけど、大好きな親が悲しむぐらいなら接種しよう」と考えてしまう、涙が出るくらい健気な子ども達もたくさんいますから。

今となっては手遅れ。止めるに止められない群衆、ワクチンを打たないという決断ができない愚民になってしまったのかしら。つまり作られたウイルスによって右往左往しているうちに病気になる。死ぬといった結果から悟るしかないということですね。私たちはもっと知らなくてはなりませんね。どうしっかり学んだらいいのでしょうか

— この3年間で少数ながらも声を上げている医師達があります。まずはネットを開いて眺めてみてください。命は自分で守るものです。どうか興味を持ったテーマをきっかけに真剣に学んでみてください。それをきっかけに親子で対話の機会を増やすのも良いかと思えます。もちろん、ワクチン問題だけでは世界情勢は見えにくいです。体からのワクチンの解毒という限定的な枠組みとしてではなく「魂の解毒」と思っています。私たち一人一人が生きていることに賢くならない限り、人間らしく生きることができない時代です。未来を生きるために。

ごぶも「コロナプラットフォーム」 <https://www.kodomo-corona.com>

ワクチン問題研究会 <https://jsvc.jp/corowakuhinavi.com>

全国有志医師の会 <https://vmed.jp>

を是非開いてみてください。

お母さんのための子守唄教室

第2回

日本子守唄協会理事長 西館 好子

8. 忙しくて子守唄をうたうなど

考えられないのですが

忙しいというのは現実です。

母親の仕事というのは、終わりがありません。どこかで一区切りつけて自分に立ち戻る、という余裕がありません。

何も考えなければ、忙殺され流されていくのが日常、ということになります。

子どもは品物ではありませんし、ましてやペットでもありません。

身の回りを見てみると、スイッチを入れればご飯が炊け、洗濯機がまわり、冷暖房が利くという文明があるのに、子どもだけはどうしても手がかるのでしょうか。

答えは簡単、人間だからです。人間というのは、大きなのに時間と手間がかかるという実情があります。どんなに文明が進んでも、妊娠から出産までの日数が半分で済むとか、一年で五歳の子にまで成長できるということは無いのです。

気が遠くなるような長い時間が育児には必要なのです。となると、その間、自発的に楽しむ方

向に持つていく知恵と努力が必要です。

子守唄を憂さ晴らしに利用してください。子どものためにうたうのではなく、自分のために慰めとしてうたっていたきたいのです。

確かに、忙しさは心の余裕を奪います。悪意やひがみを抱き、心がゆがんでしまうのも、最大の原因は忙しさにあります。

「誰もこの忙しさをわかってくれない」と絶望的な気持ちになってしまうと、逃げ道がなくなってしまう。せめて、自分のために使う時間を、自身の手で作り自滅しないようにしましょう。

9. 子どもの数と子守唄は関係がありますか

昔は「足らず 余らず 子三人」といわれたそうです。三人がちょうど良いあっぱいということでしょうか。

一人っ子より二人がいい、ついでに三人いればもつといいと言う理由はどこにあるのでしょうか。確かに一人っ子というのは可愛がられて育ちますから、子守唄をきかされるチャンスは多いかもしれませんが、しかし、構われすぎて、親の

勝手やエゴや感情を全面的に受けてしまうことになりかねません。二人目の子は、親は育児には少し慣れてきますが、子守唄をたっぷり聴かせてもらうということはあまり無いようです。次男坊、次女の子には規格はずれが多く、その原因は親の愛情の分量にもあるのかな、という偏見を感じています。かくいう私が次女ということもありますが。

三番目の子になると、もう大抵は母親にべったりです。母親の方も、これで育児も終わりという寂しさを感じるのか、溢れるほどの愛情を注ぎ、子どもはそれを独占します。

子守唄は、それぞれの子どもの性格、母親の心のありようまたは、経済状態によっても変化してきます。

三人並べて母親が添い寝して子守唄をうたうという構図は、もはや想像が付きません。やはり、小さい順にまだ言葉などいえないときにうたわれるのでしょうか。

しかし、今では三人産むというのも至難の技です。便利に何もかもが合理的になったとしても、子ども一人を生むのがやっとという時代です。昔よりも、暮らしは貧しいのかもしれない。

次号につづく



直島便り ②③

ぬくもりは命の証



南無庵 庵主 山根 光恵
山口県長門市出身
浄土真宗本願寺派 布教使

い頃に聞きなれていた言葉とは違ってきている。

暦の上では秋のはずなのに、気温は連日35度を超えて、体温を超える暑さが続いている。先日台風6号を受けて、3日間もの間、ここ直島でも凄風苦雨が二十四時間吹き荒れていた。何もかも吹き飛ばされてしまうのではないかと恐怖の日々が過ぎたと思ったら、休む間もなく台風7号がやって来た。しかしこの台風は割合早く通り過ぎてくれて、想像したほど大したことはなかった。

恐怖を感じる間もなく過ぎ去ってくれたので、本当にほっとした。フェリーをはじめ島と本土の交通機関は、何か被害を受けてとりかえしのつかないことにならないようにと、早いうちから運休の段取りをつけていたようだ。この状態が長く続くことにならないようにと、祈るような気持ちで、ひと晩、ふた晩、と息をのむように過ごした。

思えば昔は九州のほうの台風で、四国まで雨や風の心配をするなんてことはほとんどなかった。せいぜい少し強い風に「これって台風の影響かな？」と思う程度で、台風は遠くの地方の出来事と軽く考えていたかもしれない。ところがこの頃の気象は、本当に予想もつかない。テレビや新聞に書かれている気象に関する用語も、私たちが若



年を取るといふ言葉と同義語のような言葉が「衰え」だ。それは、今までできていたことが、できなくなること。衰えとは、自分ができなくなったことを認識することであり、自分がそれを冷静に見つめていくことである。

先日、姪の勧めで『102歳、一人暮らし。哲代おばあちゃんの心も体もさびない生き方』（石井哲代／中国新聞社・著、文藝春秋）という本を読ませてもらった。広島県の尾道に住むおばあさんの本だが、その人は今、102歳でひとり暮らしをされている。周囲の助けもいろいろあるみたいだけど、その歳でもきちんとひとり、とても明るく日々の暮らしを楽しみ豊かにされている方だ。その本のなかに書かれていた印象深い言葉があった。それは、「できる限り自分でできることは自分ですることです」という言葉。私もそのことに気を付けているつもりだが、この世にさようならをするその瞬間まで、そうできたらいいなと思っている。

朝、私は目覚めると、いつもベッドの中で、しばらく手足を伸ばしたり、大きな口を開けたり、しっかりと体を動かしてから、おもむろにベッドから降り、かけ布団を半分たたき、その上に脱いだ寝間着をおく。ある時、自分の脱いだ寝間着のとても暖かいぬくもりにびっくりしたことがある。「私の体ってこんなに温かいんだ」と、しばしそのぬくもりを感じた。そう、これが私の命なんだ。このぬくもりがなくなった時は、私の命の終る時なんだ。

今は、こんなに暖かい。

さあ、今日は、何から始めようか？

感謝

寝入れ寝入れ小法師

新解

わらべうた童謡詞華抄4

わらべうた研究家 尾原昭夫

我が国最古の子守唄の記録

寝入れ寝入れ小法師 縁のく下に むく犬のさぶらふぞ
梅の木の下には 目木羅々のさぶらふぞ
ねんく法師に緒をつけて ろろ法師に引かせう
露々法師に緒をつけて ねんく法師に引かせう
御乳母はどこへぞ 道々の小川へむつき濯しに
ねんくくくく ろくくく
梅の木の下には 目きららのさぶらふぞ

我が国最古の子守唄の記録とされるこの歌詞は、鎌倉時代末期成、江戸時代初期の寛文六年（一六六六）刊、作者不詳『聖徳太子伝』巻一に載る貴重なもの。同書の厩戸皇子降誕の条に記載のこの子守唄は、伝記では聖徳太子の御乳母として選ばれた五人の姫たちが「太子をよりまいらせ」てうたつたとされる。

ここでまず第一に注意すべきは、伝記のうえでは聖徳太子のご幼少のころに乳母によって歌われることとなつてはいても、その飛鳥時代とこの本の成立と推定



『聖徳太子伝』より
鎌倉時代末期成 寛文6年刊 一橋大学図書館蔵

といった幼児語とされ犬と特定されてはいない。

注 「いとし子で御座るを、誰が又泣かいた。馳（いたち）が来るによ、ないそやな、いそや。」

大蔵虎寛編『能狂言』寛政四年（七九二）成「子盗人」
そもそも人は縄文時代の昔から犬をむしろ人を守ってくれるものとして、いわば家族のように飼育し、また狩猟に活用し、ともに助け合う関係で共存し大切にしてきたのではなかったか。



聖徳太子童子人形とお守り犬
奈良 法華寺

私は先年、平城京遷都一三〇〇年の記念事業の年、平成二二年（二〇一〇）に奈良の法華寺に参詣し、寺の創建者であられる光明皇后がそこに施薬院や悲田院を設けて庶民の病いを救い、孤児や貧者に温かい手を差し伸べられた御遺徳をしのび、さらに皇后が千座の護摩供養を行つてその灰を清らかな山土に混ぜ、自ら手造りされた「お守り犬」を厄除けとして授けられたという尊い伝統が、千年の歳月を超えて代々の尼僧たちによつて今に忠実に引き継がれていることに深く感銘を受けたことを忘れることができない。

さて、ここで縄文時代からの人と犬に関わる習俗の跡を要約し概観しておこう。

〓縄文時代〓 土製の犬 栃木県藤岡町藤岡神社遺跡から出土。
犬の埋葬 人と犬の合葬 千葉県船橋市・福島県新地町などから出土。

される鎌倉時代末期とは、じつに七百年もの時代差があつて、じつさいには太子誕生の時代の子守唄とは考えられず、むしろ鎌倉時代末期の当時の子守唄とするのが妥当とされ、その点注意が必要である。そして、次に問題になるのが歌詞の最初に出てくる「むく犬」や「目きらら」の解釈。私は今回の論考で、今までの問題について多くの学者によつて解釈されてきたところとは異なる新たな見解を、私なりの民俗学的、図像学的見地からあえて述べさせていただきたいと思う。

注 『聖徳太子伝』推定鎌倉時代末期成。室町末期写本、高野山宝亀院・同宝寿院蔵。寛文六（一六六六）刊。史学地理学同致会『歴史と地理』第一九巻第一号、岡田希雄「鎌倉時代末期の子守歌」に紹介。一九二七星野書店。

縄文時代からの人と犬の関わり

今までのいわば通説とされるのは、「縁のく下に むく犬のさぶらふぞ 梅の木の下には 目木羅々のさぶらふぞ」の「むく犬」と「目きらら」を、幼児を眠らせるために「脅し」としてうたわれているものと解釈するものである。私の知る限りの伝承の子守唄における脅しには、比較的古いところで狂言に「イタチ」が出、一方、東北地方で「山の白犬（えん）コ」などがあるけれど、それは犬ではなく「おおおかみ」のこと。また大分県や宮崎県の例に「わんわん」があるが、これも採集者の解説で「こわいもの」「ばけもの」

〓弥生時代〓 土製の犬 埼玉県志木市西原大塚遺跡出土。

〓古墳時代〓 犬の埴輪 群馬県伊勢崎市境・千葉県竜角寺古墳などから出土。

〓奈良時代〓 奈良法華寺の御守犬 伝光明皇后発案、当時の実物も出土。

〓平安時代〓 犬と遊ぶ子どもの図 平安中期『直幹申文絵詞』。（以後事例が多い）

〓鎌倉時代〓 犬を抱く子どもの図 『法然上人絵伝』鎌倉後期。

警護の犬と庭に侍る武者の図 『一遍聖絵』武士の館 鎌倉後期 正安元年（一二九九）作。



法然上人絵伝より（部分）
続日本絵巻大成 中央公論社

〓室町時代〓 御伽犬（犬篋） 産所や寝所に魔除けとして置き、出産・生育の守りとする。（また雛人形とともに飾り、のちに犬張子となる。）

〓江戸時代〓 「音せでおよれ犬の子犬の子。」『天神記』近松門左衛門作 正徳四年（一七一四）初演。
犬張子の図 江戸後期『江都二色』。



江戸犬張子
尾原昭夫蔵

「むく犬」「目きらら」は脅しなのか

さて、『聖徳太子伝』子守唄について。「太子をもりまいらせ」てうたつたとされるが、その「むく犬」や「目きらら」は、はたして通説のように幼児を眠らせるためにへ脅しとしてうたわれたとする解釈が妥当であろうか。

注 『続日本歌謡圖史』志田延義著 一九六八至文堂 「従来の謂はゆるへ寝させ唄」即ち寝かせ唄がこゝに既に確立してをり、しかも「むく犬」「目きらら」をもつてする威し型として成立してゐることが注意せられる。」ほか。



警護の犬と武者 一遍聖絵 武士の館(部分)
鎌倉後期 正安元年1299作 「朝日百科 日本の歴史60」より

『わらべうた』吾郷寅之進・真鍋昌弘著 桜楓社においては、次のように解説されている。

「目きらら」は、目がきらきら輝いている動物あるいは空想上の怪物を言った当時の幼児語あるいは俗語と見、「暗くなると梅の木の下に出現するものとして語りぐさになっていたのかもしれない。つまり、縁の下にいる「むく犬(彪)」も、梅の木の下におる「目きらら」も、ともにいとけなき子供達にはちよつと怖いモノであつたわけである。特に後者は鬼でもあつたろう。それをもち出して、寝ない子を脅しているのである。

このように「むく犬」も「目きらら」も、ともに「怖いもの」として、暗闇にいる犬や怪物をもつて寝ない子を寝かすための脅しとする解釈がなされ、それがいわば通説になってきた。しかし、前述のように奈良時代、光明皇后が自ら護摩供養の灰と境内の土を煉つて小さな犬に作り、安産や子ども養育、厄除けのお守りとして庶民に授けられ、今でも法華寺の尼僧たちによりその伝統が継承されて御守り犬が参詣者に分けられていること、また、鎌倉時代、吉田兼好も『徒然草』百二十一段で「犬は守り防ぐつとめ、人にもまさりたれば、必ずあるべし。」と記していることなどが象徴するように、犬は昔から人や家を守るものとされ、その従順さと忠実さ、また勇気ある行動から、人に幸せをもたらすとし、そうした民話や伝説も各地に数多く伝えられていること。加えて赤ん坊の額に「犬の字」を印して魔除けの呪いとし、泣く子には「犬の子、犬の子」と唱え、あるいは犬宮(いぬぼこ)を産室やひな壇に飾り、妊婦が五か月目の戌(いぬ)の日から腹に岩田帯を巻き、さらに犬張子を誕生のお祝いに贈るなど、お産や育児にまつわる犬に関連する習俗は枚挙にいとまがない。このように、縄文時代以来連綿と続く人と犬との共存、犬

に関わる民俗の数々、日本の育児文化の底流に伝統的に根深く存在する「犬守り信仰」を考える時、犬を子守唄の脅しとしてうたうとする従来の解釈には無理があり矛盾があるように私には思える。まして、それをうたうのはおおむね乳母であつて、古くは高貴な家、あるいは武家・庄屋など、主の家に乳母として入る者は、その子のためには自らの命にかえてもという覚悟で養育に努める身。そのような乳母が預かる大切な幼な児を眠らせるのに「脅し」の唄をもつてするという解釈の不自然さは否めない。その背景には、後世の子守娘のうたうへ守子唄のイメージが重なっているのではないかとさえ思えてくる。そこで、この子守唄の歌詞について、いま少し詳細に調べてみよう。

むく犬のさぶらふぞ

加茂百樹著『日本語源』によれば、「むく犬」について、「彪毛犬なり。倭名抄に「深毛犬也」とあり、栄華物語にもみゆ。彪は茂毛なり。」とあり、要するに「むく犬」とは毛のふさふさとした長毛の犬のことである。ここで重要な指摘をしておかなくてはならないのは、そもそも日本には古来長毛の犬はおらず、今でも秋田犬・柴犬・紀州犬のほか、日本犬とされる犬に長毛種はいないということである。そして唯一、外来の長毛種で奈良時代以降、宮廷を中心に飼育され愛玩されてきた犬がへ狎(チン)であった。平凡社『世界大百科事典』では、「狎」について次のように解説する。

「日本の愛玩犬で、チンとは小さいイヌヘチイヌヘチヌヘがなまつたものといわれる。八、九世紀に新羅や渤海から朝廷へ貢上された宮廷犬や遣唐使が持ち帰ったイヌが今日のチンの始祖犬で、(中略)チンは日本人の手によつて祖先の原型をよく保つて現在に発展してきたイヌである。祖先犬自体が中国で宮廷犬としてはごくまれな純粋の愛玩犬で、チンは日本人が作出した唯一の傑作として広く世界に知られている。」

次に「さぶらふ」についての辞典の記述を見よう。

小学館『日本国語大辞典』より。「伺候する相手や、存在する場所(その場所の主)を敬つて用いる謙譲語。(1)貴人や敬うべき人のおそばに控える。おつき申している。また、宮中など、敬うべき場所にいる。伺候する。(2)(結果的に、貴人のおそばにしていることになることから)貴人のおそばにあがる。参上しておそばにつき従う。」

目きららのさぶらふぞ

続いて「目きらら」について、辞典から「きららか」の記述を見る。小学館『古語大辞典』より。「煌らか」きらきらして美しいさま。きらびやか。「御かたち、いと清げに、きららかになどおはしましし」(大鏡・兼通)。「少し後れてきららかなる雑色の男一人また詣でたり」(今昔)。大槻文彦著『新編大言海』富山房より。「煌(キラメ)ク状ニテ。キラビヤカニ。キラキラシク。」栄花物語三、様様悦「御前ノ人、皆皆ヤンゴトナク、きららかなる限リヲ撰ラセタマヘリ」同二四、若枝「見目ノ、オドロオドロシウ、きららかなる事ハ、又世ニメヅラカニ、サブラヒツルワザカナ」これら「きららか」の語義・用例により、私はこの子守唄の「目きらら」を、暗闇にひそむ怖いものと見るよりは「目きららかなる者」、すなわち「梅の木の下にさぶらう目きららかの警護の者」と見る方が自然ではないかと思う。

以上の考察にもとづいて、上掲の『一遍聖絵』武士の館(部分)を見ていただきたい。その時代も「寝入れ寝入れ小法師」の子守唄の推定期、鎌倉後期に合致し、縁の周囲にいる犬、庭や木の下に地面に座して待る警護の者たちなど、この図がまさにこの子守唄のうたう情景をほうふつとさせるものとして、有力な傍証となると言えるのではないかと私は考える。以上、あえてここにへ新解として取りあげさせていただいたが、むしろご異論があればお聞かせ願いたい。

連載 06

子ども虐待は、今

ジャニーズ問題と 児童虐待防止法

子どもの虹情報研修センター 川崎 二三彦

国連人権理事会

本年7月、各国の企業活動における人権問題を調査して対応を促す国連人権理事会「ビジネスと人権」作業部会の面々が日本を訪れ、政府をはじめ各省庁や地方自治体の関係者、企業経営者、労働組合などから幅広く聞き取りを行った。その上で8月4日に出された声明では、リスクにさらされている人たちとして、「女性」「性的マイノリティ」「障害者」「先住民族」「部落」「労働組合」の6つを挙げた。また、ジャニーズ事務所を巡る性加害問題も取り上げ、関係者へのインタビューも行い、記者会見で次のように指摘した。「数百人が性的搾取と虐待に巻き込まれるという深く憂慮すべき疑惑が明らかになった」

当事者の会

会見の様子を固唾を呑んで聴いていたのは、ジャニーズ性加害問題当事者の会の人たち。



記者会見を注視するジャニーズ性加害問題
当事者の会の人たち(NHKニュースから引用)

こうした性被害は、以後の人生にも暗い影を与える。彼は、その後もフラッシュバックに苦しみ、体重は減少し、点滴や睡眠薬の処方を受けながら仕事をこなしたとのこと。しかも、今なお不眠やうつ症状が続く、薬の処方や定期的なカウンセリングを受けているという。

署名活動

では、親にも言えず長年秘してきた被害、思い出すことさえ苦しい出来事を、どうして公表したのか。彼は言う。「未来ある子どもたちが私たちのような経験

「やったぞ、やったぞ！」

「35年かかったな」

国連が性加害を認めた瞬間、思わず涙ぐみながら握手をする彼らの姿がテレビで映し出されると、見ていた私も、思わず「よかったな」とつぶやいたのであった。その後、同じ会場で記者会見に臨んだメンバーは、「僕たちのメッセージが(国連の専門家に)ストレートに伝わり、真摯に受け取ってくれたと感じ、会見を見ていて感極まった。僕たちに勇気をくれたという印象だ」と発言した。

ジャニーズ問題とは

では、そもそもジャニーズ問題とはどのようなものか。かつてアイドルグループ「忍者」で活躍し、国連の聞き取り調査にも応じた志賀泰伸氏(55歳)は、ジャニーズ事務所に入った15歳の頃、東京・原宿の「合宿所」と呼ばれるマンションで、

をして一生背負わなくてすむよう、子どもが守られる社会になつてほしい」

おそらくこれは、被害に遭った誰もの願いだろう。彼らは、児童虐待の防止等に関する法律(以下、児童虐待防止法)における児童虐待の行為者を保護者以外にも広げ、性的虐待に気づいた成人に通報を義務づけるよう法改正を求めて署名活動を行い、わずか10日間で4万筆近い署名を集め、与野党6党に提出している。

児童虐待の定義といっても、詳しく知っている人は少ないかもしれないが、児童虐待防止法は、次のように規定している。

「この法律において、『児童虐待』とは、保護者がその監護する児童について行う次に掲げる行為をいう」

「次に掲げる行為」とは、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待の4つだが、この定義に照らせば、ジャニー前社長の行為がどんなに重篤な性虐待であっても、彼は(少年たちを)現に監護している保護者には当たらないので、法律上は児童虐待に該当しない。今回の署名活動は、その点の不備を訴え、こうした事件を2度と起こさぬよう、法改正を求めたものと言えよう。

WHOの定義

実は、この点はすでに早くから問題とされてきた。たとえば、2000年の児童虐待防止法制定直前、国会に参考人として呼ばれた森田ゆり氏は、大要次のように発言している。

「定義の中で、親または養育者からの何々行為というふうに限定をつけるのはやめてほしいと



記者会見する国連人権理事会
「ビジネスと人権」作業部会の専門家(東京新聞から引用)

故ジャニー喜多川前社長から性被害に遭い、以後、18歳頃まで30回から40回にわたって性被害を受け続けたという。彼はNHKの番組で次のように話す。

「とにかく恐怖で固まってしまいました。子どもながらに言っではいけないことだと感じ、誰かに相談したり親に打ち明けたりすることはとてもできませんでした」

「あるときジャニーさんに『ユー、暗いね。どうしたの?』と言われ、『あなたのせいですよ!』と心の中で叫んだことを今でも忘れません」

「(アイドルとして活躍している時期にも)ファンの人をだましているんじゃないかなとか、自分は汚れた人間じゃないのかなと、常に思っていました」

思うのです。とりわけ性的な虐待というのは、厚生省の統計なんかでも非常に少ないですけれども、水面下にはかなりあるはずで、親からだけでなく、親戚のおじさん、親の雇用主、クラブのコーチ、おけいこごとの先生、そういう子どもの身の周りにいるいろいろな人たちから虐待を受けています。虐待の定義が親または養育者に限定されてしまうと、性的虐待には対応できなくなります」

視野を少し広げ、国際的な観点から眺めてみたい。WHO(世界保健機関)による児童虐待の定義は、概ね次のように定められている。

「あらゆる種類の身体的および(または)感情的な虐待、性的虐待、ネグレクト、および商業的またはその他の搾取が含まれ、責任、信頼、または権力の関係に関連して、子どもの健康、生存、発達、または尊厳に実際のまたは潜在的な害をもたらす」

WHOの定義は、いわば国際標準であり、加害者を保護者に限定せず、子どもに一定の責任を負っている、もしくは子どもから信頼を得ている、または子どもに対する一定の権限を持っている関係性を有する状況のもとでなされるもの全てを対象としている。

むろん、定義を変えればそれで問題が解決するというわけではない。とはいえ、児童虐待防止法制定から20年以上を経て、改めて児童虐待とは何であるかが問われていることは疑いない。私たちはこどもの権利を守り、尊重するという原点に立ち返って、虐待防止に取り組む必要がある。



いやあ、嬉しさが込み上げてきました。こんなことは初めてです。終わった途端に次の機会を確かめて来るなんて。余程いい話だったと己惚れたくな

と問いましたところ、いたばん右手に坐っている中高年の男性がさつと挙手。「次は何時ですか？」と来たものです。

「質問のある方は？」
と聞きましたところ、いたばん右手に坐っている中高年の男性がさつと挙手。「次は何時ですか？」と来たものです。

いてけ掘をくうというアンバランスな状態に陥りがちです。だから呼吸法によって自律神経のバランスを回復することを日常茶飯としたいのです。このように呼吸法は私たちの生命を維持するために大事な存在なのです。決して馬鹿にしてはいけません。

それでも私の呼吸法は地味に見えるらしく、決して人気番組ではありません。いつも参加者は20人前後です。これを前以て知らされるので申し訳ないなと思って出かけていくのです。しかし、一方では朝日カルチャーさんが、私のテーマとして執拗に呼吸法をすすめて来ることに感謝の念を感じ得ないのです。

8月2日の教室も20人ほどでした。中央左手の中年の女性がいかにも親しげな笑みで私を迎えてくれました。例によって私のほうは彼女が誰であるか思い出せません。この日はリピーターがほとんどいませんでしたので、同じ話にとられることもなく自由に楽しく話せたものです。例によって終了5分前に話を終えて

「質問のある方は？」
と聞きましたところ、いたばん右手に坐っている中高年の男性がさつと挙手。「次は何時ですか？」と来たものです。

増刊

帯津良一

心と体の呼吸法



9月に開かれる学会の司会を務める方から演者の一人である私にテーマや経歴の確認があり、その一環として、最近あった嬉しいことについて教えてほしいという一行が加わっていました。

はっとしました。たしかに最近、嬉しいことがあったのです。その事実を漠然と感じるだけで心がときめいて来ます。しかし、悲しいかな、87歳という高令。そのときの状況がばつとは蘇っては来ないのです。そこで手帳を開いてみました。ありました。8月2日に、朝日カルチャー新宿とあります。そうです。久しぶりに大きな嬉しさを感じたのはこのときでした。

朝日カルチャー教室さんのお付き合いはもう40年くらいになるのではないのでしょうか。当初のことはあまり覚えてはいないのですが、気が付いたら定期的に新宿教室に通っていたはずで。最近では3カ月に1回のペースです。テーマは記憶にあるかぎり、ずっと呼吸法です。いつも教室さんのほうで決めて来ます。いつも「また、呼吸法か！」

と思いつきながら、いつも同じ話ではリピーターさんたちに申し訳ないと思いつきながらお引受けしています。

しかし、いつも同じ話をするというのも決して容易ではなく、意識する、しないにかかわらず、風向きは決して同じではありません。話しながら風向きが変わって、これまでと異なる展開になるのも楽しいものです。そもそものが呼吸法という、気功や太極拳にくらべて地味な感じがするのではないのでしょうか。

ところが、地味なんてとんでもない。呼吸法は私たちが生きていくためのきわめて大事な役割を果たしているものです。これを知ると呼吸法は一気に派手な存在に様変わりです。簡単に説明をしますと、私たちの体内では生命を維持するためにすべての内臓がフルに働いています。内臓の働きを推進するエネルギーは太陽から発して植物を通して体内にやって来ます。そして、



るではありませんか。そして散会になるや、先の笑みの女性がやって来て、

「今日は私の仲間を連れて来ました」と言いながら、いきなりハグです。終るや、7人8人の女性仲間がハグの列です。いやあ、最近ではいたばんの嬉しさでした。帰路のタクシーに乗ってからも、次々と楽しい思い出が蘇って来たものです。まず思い出したのは朝日カルチャー新宿の教室にしばしばやって来る書道家のO女士のことでした。年令は50代か。端正な好い顔をしています。彼女との出会いが奇抜なのです。

池袋で仕事をしている水曜日と木曜日は年来の友人のSさんと時々昼食を共にします。Sさんは70代前半。専門は哲学です。それだけに話に気品があります。大きなビルの中のうどん屋さんで、メニューはほぼ決まっています。生ビールの中ジョッキと鰻とろ井の半ライス。締めはアイスクリームです。この鰻井のところが、カツ井になったり親子井になったりすることはありましたが、現在のところは鰻とろ井で安定しています。

いつものように、私が少し先に席を立てて会計を済ませてお店の外に出ると、Sさんが追い掛けて来て、隣に居た女性が「すみません。あなたの方のお話を全部聞いてしまいました。じつにいい話でした。あなた方はどういうお仕事なさっている方なのですか？」と声を掛けて来たと言います。

それからまもなくの朝日カルチャー新宿教室での開会のあと初めての参加と思われる中年の

それぞれの臓器に適したエネルギーに変換されます。

その変換のたびにエントロピーが発生します。エントロピーとはご承知のように無秩序化の指標です。エントロピーが体内に増えると秩序が乱れて健康が害されます。それでは困るので、私たちの体はエントロピーを熱や物にくっつけて、汗、涙、呼吸、大便、小便などの形で対外に捨てているというのが、オーストリアのノーベル物理学賞の受賞者、エルビン・シュレーディンガーの発想で、いまでは定説になっています。

しかも、汗、涙、呼吸、大便、小便のなかで何回も繰り返してできるのは呼吸だけです。もう一つは自律神経のバランスを整える働きです。自律神経とは生体を活動的にする交換神経と、これと拮抗して生体に休養を与える副交感神経とから成ります。一方、呼吸で副交感神経が優位になり、吸気で交感神経が優位になるという生理機能があります。

このストレスの多い情報化社会、私たちの体は常に交感神経が優位になり、副交感神経が置けない状態です。爾来、時々教室に現われて、すっかり仲良しになり、彼女の個展に出席したりしたのでから縁は異なもの味なものなのです。それから藤沢教室にも、年に1回ですが、よく通いました。大学の教養学部時代の友人のK君がいつも藤沢駅の改札口で待っていてくれるのです。朝日カルチャーの入っているビルの中の中華料理店に行つて旧交をあたためるのです。下戸の彼は定食のようなものを注文し、私は生ビールにピータン豆腐のような前菜といった簡単な昼食です。K君はかつての麻雀の好敵手。年に1回会うのが楽しみでしたが、何年か前に藤沢教室が廃業になって以来一度もお会いしていません。

また、朝日カルチャーさんの担当は同じ女性が定年までというケースが多く、これも楽しみのうちです。新宿のSさん、千葉のMさん、大阪中の島のFさん。思い出すだけで懐かしさが込み上げて来ます。

帯津良一 プロフィール

1936年、埼玉県川越市に生まれる。東京大学医学部卒業、医学博士。東大医学部第三外科に入局し、その後都立駒込病院外科医長を経て1982年、川越市に帯津三敬病院を設立。2004年には、池袋に統合医学の拠点、帯津三敬塾クリニックを開設。
日本ホリスティック医学協会名誉会長。著書に「代替療法はなぜ効くのか?」「健康問答」など。その数は100冊を超える。

「遠野ふるさとづくり」

木瀬なずな 岩手県遠野市

小学校の夏休みが終わり少し経ったころ、地元小学校の副校長先生が我が家にやってきました。「6年生に俳句を教えてもらえませんか?」というものでした。

私が住む町は年々子供が減り、当該の達曾部小学校は、5年生と6年生の複式学級です。5年生が「宿泊学習」の日に、残された6年生の授業を俳句学習に充てたい、という話でした。いつもと違う授業をしたいと考えたのでしょうか。それにしてもなぜ私に白羽の矢が立ったのかかわかりません。後期高齢者の私は2年前、友達に誘われて俳句を始めたばかりで、季語も十分に理解していない初心者です。そのことを伝えたのですが、副校長先生は「大丈夫です。子供たちと俳句で遊んでもらえたらいいのです」と仰います。学校は、地域のひととの交流を大切にしたいと考えていると、聞いたことを思い出し、勇気を出して引き受けました。

俳句教室は、依頼を受けたその日から10日後です。人前で何かを教えるなどと言うことはこれまでになかったことではありません。どんな準備をしたらいいのか。初めて俳句に接する子供たちを想像し、何が分からないか、何が楽しいかなどあれこれ考えを巡らせました。まず、自分たちと同じ年代の子供たちが作った俳句をたくさん見てもらい、「俳句ってこういうものか」と感じてもらうことにしました。それが載って

いる本を図書館にいつて借りてきました。その俳句を一句ずつ、カレンダーの裏の白い部分に書き写していききました。これを使い、「五・七・五音で区切る」「季語を入れる」などの基本を分かってもらおうと考えました。「たった17文字で自分の気持ちを表す」「短いからすぐ書ける」「リズムがあつて心地よい」などと、魅力を考えてメモしていくうちに、どんどん楽しくなってきました。作者の心もしっかり伝わってきて、私が癒されていったのです。

いよいよ俳句教室当日になりました。不安が募る中、授業開始を告げるチャイムが鳴りました。子供たちは、何が始まるのかなあ、といった面持ちです。私は、持っていた「カレンダー裏」を黒板に貼りました。そして、子供たち一人ひとりを指名して、そこに書かれた俳句を読んでもらったり、前に出てきて季語に○をつけてもらったりしました。簡単な質問に答えてもらいました。そうしているうちに、子供たちの心がどんどん自由になり、どんな感想も意見も答えも、皆が受け入れ、話し合うようになっていきました。いつの間にか全員が俳句の世界に入っていく、びつくりするほどの感性を示すようになりました。さつき初めて俳句に触れた子が「秋の暮れ夕日の光で満ちていく」と詠むと、私は感激するしかありませんでした。

1時間目が終わり、2時間目は、それぞれで

俳句を作ってもらいました。その静けさ、真剣さ、その中に身を置く私はかけがえのない命の真つただ中にいる感じでした。おおよそできたかなと思いい、一人ずつ作った句を詠んでもらい黒板に書きました。皆からその句に対する感想を聞きました。すると「あそこは分かりにくいからこうしたらどうか」「こんな言葉ならどうか」などの確な意見が出てきました。何より驚いたのは、あんなに短い時間だったのに、素晴らしい俳句を皆が作ったことでした。

全員が発表し終わった頃、2時間目の終了チャイムが鳴りました。子供たちと一つになつて俳句と遊んだ夢のような時間が終わりました。後日、先生から「子供たちが楽しかったと廊下で話しているのを聞きました」という労いの言葉をいただき、宝物として胸にしまいました。

この時に利用した本の一冊は、俳人の金子兜太さん監修の「子供と楽しむ俳句教室」でした。そこには小学校でいじめを受け、耐えきれなくなつて不登校になつたり歳の子の作品が載っていました。

「いじめられ行きたし行けぬ春の雨」

これは、兜太さんが選者を務める新聞の俳句コーナーに、5000通の中から選ばれて掲載された俳句だそうです。その結果、彼は「自分の思いを俳句で表現し、それが認められることで自分を守る城を持つことができ」、「大きな自信をもつて生きようになつた」と書かれていました。

それに共感した私は、この夏休みに児童クラ

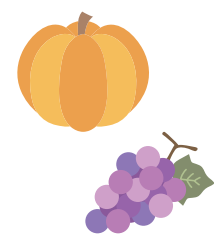
活動報告

■配食(毎月第二・第四木曜日)

つつがなく実行されています。シングルマザーの皆様、お困りの方はどうぞお申し込みください。保存食も含めて、食べ盛りのお子様のご家庭にお役立てられれば幸いです。

■スミセイファミリーコンサート in 市川市 8月13日(日)

夏休み猛暑の中、市川市文化会館にて親子の皆様が楽しく歌を聴き遊びました。



■ふれあいファミリーコンサート in 京都市 9月2日(土)

コロナ以来、無沙汰の京都でのコンサート。地元京都のわらべ歌と各地の子守唄をお聞かせいただきました。

「知らなかった」という来場者のお母さんの声、自国の唄の伝承の大切さをこれからも伝えていきたいです。



ご紹介

訪問ボランティアをされている「えつちゃんばあばのうたとお話の会」の山元絵津子さんです。

こんにちは。私はいつの間にか80歳をいくつも超え、りっぱなババになりました。それでも腰の立つうちは、幼いお子様や熟年の方々のお役に立ちたいと思い、ご要望に応じて「うたとお話の会」を開催しています。

幼いお子様には、わらべうた・手遊び・パネルシアター・紙芝居を、熟年の皆様には、クイズや伴奏に合わせて歌う楽しさを体感いただくなど、年齢層に合わせた工夫をしています。

「うたとお話の会」を通して、より多くの方々へ心豊かな充実した時間をお過ごしいただければと思います。一緒に楽しみましょう!



山元 絵津子さん

【お問い合わせ先】

携帯: 090-3217-5513

e.y.gen.0831@docomo.ne.jp

TEL・FAX: 03-3658-8740

E-mail: yamagen1031koiwa@gmail.com

応援がしてくださる方々

協会の活動にご協力くださいました皆様、ご寄付を有効に使わせて頂きます。これからも日本子守唄協会への応援をよろしくお願い申し上げます。

2023年4月1日から2023年9月15日現在 五十首順 匿名希望10名

(敬称略)

「個人」

江村 清	久世明子	素野 悟	中山 公子
大石照美	国見修二	田井 二郎	並木 恵
大川幸枝	栗林欽一	高田 修	南部和彦
大河原尚夫	下條泰生	高橋佳奈枝	南部昌宏
大嶋孝造	叙持英子	高橋 寛	西尾まき
大野隆司	小泉晶一	高松榮子	庭山正一郎
岡田詠美子	小井土洋一	竹中裕子	則武清司・美佐子
岡本喜久穂	小林ヒデ子	田中厚子	八戸保彦
奥山糸子	近藤征治	田中悦子	原 昭邦
長田曉二	今野七重	田中壮一郎	原田直之
小田紀美子	齊藤進也	田中三智子	治田るり子
尾原昭夫	齊藤 現	田中安子	肥田五和子
常津良一	齊藤淑子	棚澤青路	廣政真貴子
小山芳郎	酒井董美	棚橋牧人	福井典子
貝塚津音魚	坂口佳志江	谷藤順子	福永教正
加賀山 昭	坂野紀多子	谷藤正人	藤岡寛昌
春日宏美	坂野美恵子	玉井祥子	フジ・ヘミング
片山雅文	佐々木喜久子	千野千鶴子	藤澤 昇
加藤和栄	佐藤久光	千葉 伝	藤島寛昌
門山榮作	佐藤一美	辻 容子	藤森久美子
上遠恵子	佐藤洋詩恵	徳永雅博	古川洋文
川北恭伸	沢田茂子	泊 和男	堀合辰夫
川下則子	沢田 敬	巴 稔	増田善弘
河原みさ子	篠原毅彦	奈加靖子	松代洋子
神崎邦子	清水睦夫	長尾優子	松永忠夫
神原節子	白石源次郎	中島富志子	松原健之
神戸 修	須賀正二	永田 亨	黛 一子
菊池弥生	菅佐原道夫	中谷比佐子	三浦敏昭
木瀬公二	菅原芳徳	長縄千鶴子	三浦眞澄
木戸由加里	杉浦あい	中根宏昭	三浦美智代
木下由美子	杉野善彦	永見徳代	三浦義孝
木村賢史	須崎晃一	中元修治	
木村康雄	須藤 博	中元みどり	

「団体」

株式会社Sプラン	水島納子
株式会社力ガヤ不動産	南一三子
株式会社花の企画社	宮地勝美
株式会社佛蘭西屋	武藤元昭
株式会社ミールケア	村井繁雄
全国わらべうたの会	村田正巳
つるみ芸協会	村山眞奈美
坊田かずまの会	森井照穂
よし田	森田文子
	安江和也
	安岡富士子
	安元 稔
	矢萩昌道
	山折哲雄
	山川 忠
	山口敏明
	山口洋子
	山崎秀甲
	山下愛仁
	山下五郎
	山根光恵
	山元繪津子
	結城天鼓
	湯川れい子
	横沢裕子
	吉岡友次郎
	吉田紀世子
	吉田法子
	吉田陽子
	吉田 博
	吉永小百合
	米野宗禎
	渡邊武雄
	渡辺久子

ご寄付の応援を お願いします！

日本子守唄協会の活動は、皆様からの
 ご寄付に支えられております。すべての子
 ども達が希望に満ちた未来をつかめるよ
 う、皆様のお気持ちの託された寄付金を、
 様々な活動にいかしてまいります。

ご寄付をいただきました皆様は小冊子
 「ららばい通信」、イベントのご案内、ま
 た活動報告をお送りさせていただきます
 す。どうぞ時期や金額に関わらず、年間
 を通してご寄付をお願い申し上げます。
 ご寄付への詳細は、日本子守唄協会事務
 局までお問い合わせください。

【寄付振込先】

- みずほ銀行 浅草橋支店
 (普)1090012 トクヒ)日本ららばい協会
- 郵便振替口座 00150-3-575309

皆様からのお便り・ご投稿をお待ちしております。

◎子守唄について疑問に思うこと・知りたいこと、子育てについて思
 うこと、親子の思い出話などお送りください。思い出の写真など
 も募集しております。

◎あなたの町の地域活性化のための活動や育児支援活動、町ならではの
 の活動など紹介したい情報がありましたら、ぜひぜひお教えくださ
 い。「ららばい通信」を通じて地域の情報交換をしませんか？

◎皆様と共にららばい通信をより良いものにしていきたいと考えて
 おります。お気軽にご意見・ご感想をお寄せください。

日本子守唄協会事務局 編集人・西館好子

〒125-0054
 東京都葛飾区高砂3-13-13 三浦ビル1階
 TEL 03-6458-0283
 FAX 03-6458-0284
 Eメール info@komoruta.jp
 URL https://www.komoruta.jp/

ららばい通信ご入用の方は当協会にご連絡下さい。
 また、保存希望の施設や団体の方も合わせてお申込みくださいませ。